

1. 各項目の特徴点、考察

Q 1 自治体の実施するがん検診について

①、②の認知度について、男女計では過半数を超えており周知度は予想の範囲であったが、男女別でみると男性の過半数割れに比し女性の8割が「知っている」と回答している。回答者数に起因するところもあるが、女性のがん検診に寄せる関心の高さが垣間見える。

Q 2 「Q 1」で①②の回答者

約半数の方の回答となった。認知についての問いであるが、HPよりポスターによる情報収集が今の時代にあって、有力な情報源となっているようである。また、会社・労組等からの勧めが意外と少ないのは、自治体の周知活動が企業等への訪問、呼び掛けによらず、HP・ポスター等の一方通行の周知活動の表れだと感じる。

Q 3 「Q 1」で②の回答者

予想通り「会社に受診制度がある」の回答が大勢を占めているが、「これから受診しようと思っている」と言う回答も決して無視できない数字として表れている。また「今は健康だから必要ない」の回答は女性に比べ男性が圧倒的に多い。「健康」に対する意識の違いか？

Q 4 今後、受診してみたい検診は

男性は胃、肺、大腸がんへの関心が高い。女性は子宮がん、乳がん等の女性特有の疾病に関する関心が非常に高い。

(がん検診 地域)

自治体を実施していることを「知らない」と回答した方で最も多かったのは西尾市であった。

岡崎市は約45%、西尾市では約60%の方に認知されていないのが事実である。人口の増加に対する周知が追いつかないのか？また、受診制度を持っている企業などは西尾市の方が5%程度低い値となった。認知度に対し、企業の制度の整備が低く、受診率の向上を目指すことを念頭に置いているのか疑問を抱かざるを得ない。

Q 5 通勤に使用する交通手段について

自動車産業を多く抱える当地としては、やはり自家用車を通勤手段とする選択がほとんどを占める。電車・バスなどの公共交通機関を押えて「自転車通勤」が次点になったのは意外な結果であった。また、パークアンドライドが普及し始めているが、アンケート結果から見ると、わずか1%足らずであった。

Q 6 日常生活での交通手段について

こちらもやはり自家用車であるが、通勤の手段と比べてもダントツである。郊外へのショッピングモールの出店、また役所等でも広い駐車場を有している所が影響しているのか。

Q 7 環境に配慮した交通体系

安全で快適な道路環境の整備が望まれていることは理解できるが、一方で公共交通機関へ期待する事柄も多くあると解釈できる。定時運転、多頻度運行等利便性を求める意見が意外と多くあった。反して渋滞緩和のための時差出勤への関心は低くとどまった。

(公共交通 地域)

公共交通に関しては、基盤の脆弱な西尾地区で自家用車への依存傾向が強く出た。買い物、通院等の通勤以外の移動手段では9割を超える方が自家用車と回答している。西尾地区では名鉄蒲郡線、西尾線が行政からの補助金でかろうじて存続している。市では存続に向けての活動も行っているが、通勤客などの誘致が優先事項ではないか。

2. 地協の政策要望への反映課題

(1) がん検診について

がん検診の目的は早期発見・早期治療であり、そのことによる総額医療費の削減である。健康への関心は男性よりも女性の方が高い結果となった。自治体へはHP、ポスターの製作にとどまることなく企業、労働組合などへの宣伝活動の充実を図るよう求めていく。

(2) 交通体系の整備

前項でも述べたが、アンケート結果から察するに、完全なクルマ依存社会である。しかしながら環境への影響、また交通弱者のために公共交通を維持していくためには交通環境全般の改善、整備が必要なことを回答者が認識していることも伺える。交通事業者も含めた交通施策の要望を取りまとめていく。

3. 連合愛知の要望書、行政への要請取り組みとしたい項目 (地協独自では達成が困難な項目など)

ナシ

4. その他(統一項目や他地協のアンケートと比較して気づいた点など)

インフラ整備の重要性